

英語化について

昨今の国際化・グローバル化が大学等を取り巻く研究環境においても重要視されております。平成 27 年 3 月に開催されました日本化学会の春季年会より、「年会の英語化」が始まっております。

このような背景を受けて、平成 27 年度より東北支部では支部大会(東北大会)での英語化を導入しております。

一方、拙速な英語化導入により、東北大会本来の目的である研究討論や情報交換の実を上げることが阻害されたり、参加者数の減少を招いたりすることがないようにすることも大切と考えます。

英語化による教育的効果も勘案して、引き続き今年度東北大会での英語化を以下のように試行したいと考えております。

1)セッション・シンポジウム・コロキウムについて

- ・講演要旨の英語記載および英語による口頭発表を推奨する
- ・発表媒体(PowerPoint)は英文表記とする
- ・座長は、英語発表の場合は英語で、日本語発表の場合は日本語で司会を行う。
質疑応答は日本語と英語を併用する。日本語による質問を受け付けるとともに、
院生・学生等が質問者の場合は、必要に応じて講演者に日本語での回答を促すなど、
討論の実を挙げる。

2)ポスター発表について

- ・講演要旨の英語記載を推奨する。
- ・発表媒体(掲示ポスター)は英文表記とする
- ・発表および質疑応答は日本語でも構わない

3)化学教育研究協議会東北大会

- ・従来通り、講演要旨および発表媒体は日本語表記とし、発表と司会などは日本語で行う。

4)会長講演等の特別講演

- ・講演要旨、発表媒体、発表言語は講演者に一任する

是非、ご理解の上、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。